

# 総務の 365日

## これからのオフィスを考える キーワード

～ コミュニケーション活性化の実現を目指して ～

執筆：『月刊総務』編集長 豊田 健一

2015年のキーワードは「国を挙げてのダイバーシティー」「生き残りのためのグローバル化」「ますます本格化するCSR」。これらはすべてコミュニケーションに深く関連したキーワードです。

ダイバーシティーとグローバル化においては、さまざまな価値観を持つ従業員のベクトル統一の必要性があり、CSRにおいては、さまざまな価値観を持つステークホルダーと対話しなければならない、社内外のコミュニケーションの大切さを実感する年となるはずです。

### オフィスを考えることは、組織を考えること

オフィスを考える時、ハード的“モノ”を考えることが多いかと思います。モノの選択、什器の選択は一番最後です。まずオフィスという場所で「何がなされるべきか」という“コト”の明確化から考えなければいけません。

オフィスが存在するためには、まず企業の存在があります。そして企業の最小構成単位である“人”が、オフィスで働くことで企業が存続します。その人がオフィスで何をして欲しいか、どのように働いて欲しいかを考えることが重要です。

そして、企業活動の基本とは、組織的活動。個々人の働きをさらに効率よく、効果的にするには、組織的な動きが必要です。つまり、組織活動の三要素＝「共通目的（組織目的）・協働意志（貢献意欲）・コミュニケーション」が重要となります。

### コミュニケーション活性化を実現するオフィス

上記の中でも要（かなめ）となるのが、コミュニケーションです。共通目的もトップとのコミュニケーションにより伝達されます。また、協働意志もコミュニケーションが活性化されることで、社員同士お互いが何をしているのかが理解でき、お互いのリソースを使って協働しようという意志が芽生えます。

人と組織の集まりである企業にとって、コミュニケーションが活性化されることが何より大切です。だからコミュニケーション活性化を実現させるオフィス作りが、全ての基本となるのではないでしょうか。

### 「きっかけ」と「空間」がコミュニケーションの数を増やす

コミュニケーション活性化の実現のためオフィス作り。そのポイントは3つです。「オフィスの見える化」「ちよいミーティング・スペース」「マグネットスペース」。順を追って説明しましょう。

オフィスの見える化とは、誰がどこで、どのような仕事をして

いるかが一目瞭然のオフィスです。背の高いキャビネがなく、間仕切りがないオフィス。会議室もガラス張りであり、どのようなメンバーで、何が討議されているかが分かる。あるいは、間仕切りがなく、誰でも自由参加の会議スペース。このようなオフィスの見える化により、会話のきっかけがそこかしこに生まれます。

会話のきっかけを見いだしたら、次に必要なのは会話のできるスペース。よく言われるちよいミーティング・スペースの配置です。会話したくても、スペースが見つからなければ、良いアイデアも死んでしまいます。会話したい時にすぐに会話できるスペースを、オフィスのあちこちに配置しておくことで、コミュニケーションの数が増えてきます。

そしてマグネットスペースの配置。コピーやプリンターなどの共用機材をオフィスの一か所に集めることで、偶発的な出会いを作り出します。出力を待っている時に「久しぶり！いま何の仕事をしているの？」と、日ごろ会話する機会のない他部門の社員間で、このような会話が生まれます。また、わざわざその場所（コピー機）まで歩かなければならないので、出会いの可能性が高まります。このような「出会いと、会話」を促進することでコミュニケーションの数が増えます。

### 五感に訴える空間がコミュニケーションの質を高める

コミュニケーションの数を増やす工夫ができれば、次に、コミュニケーションの質を高めるために、空間作りが重要となってきます。

カジュアルな会話を重視したいリフレッシュ空間やアイデアを発散させるような会議空間では、より打ち解けた会話をするために、木調やオレンジ・グリーンなどの明るい配色にしたり、リラックスできる音楽を流したり、観葉植物を置いたりする工夫がされます。またお菓子やコーヒーなどで気分転換できるようなルール作りをしている企業もあります。一方、フォーマルなビジネスコミュニケーションが必要とされる会議室のような空間では、会議に集中できるような寒色・モノトーン系の配色にしたり、集中できる香りのアロマなどを置いたりすることで、より上質な会議を実現します。

このように場に合わせて、人の五感に働きかける工夫をすることで、よりコミュニケーションを活性化することができます。

コミュニケーションの数を増やす取り組みやコミュニケーションの質を高める工夫など、まだまだできることがたくさんあります。今年は社内のコミュニケーションを活性化する取り組みをしてみませんか。



豊田 健一

『月刊総務』編集長

●早稲田大学 政治経済学部 卒業 ●株式会社リクルート入社 経理、中途採用媒体の営業、総務、販売会社の計数管理を担当 ●株式会社魚力入社 総務課長として本社移転、株式公開を経験 ●ウィズワークス株式会社入社 日本で唯一の総務専門誌「月刊総務」の編集に携わり、社内広報の研究とコンサルティングも担当 ●2012年6月より、「月刊総務」編集長、ナナ総研主任研究員に就任。

整理整頓がどうしても浸透しない…。

会議が終わらないし、決まらない…。

職場に会話がない。活気もない…。

防災って何から手を着いたらいいかわからない…。

# オフィスの課題

## 発見 & 解決

## それが、コクヨの「ライブオフィス」

働きやすいオフィスを実践し続けて45年！

### 「ライブオフィス」とは？

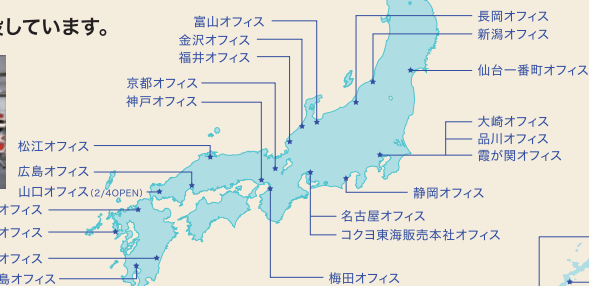
実際にコクヨの社員が働いているオフィスを直接ご覧いただけます。家具などのハード面だけでなく実運用などのソフト面を含めた、オフィスに関する悩みや課題を解決するヒントが詰まったオフィスです。カタログやインターネットでは伝わらない、生きたオフィスを体感してみませんか？オフィスのプロ集団・コクヨのライブオフィスへぜひお越しください。

### 全国のライブオフィス

実際に社員が働いている  
オフィス空間をご覧いただける  
ライブオフィスは  
全国23カ所に開設しています。



広島オフィス



仙台一番町オフィス



福岡オフィス

### 品川オフィス SHIPP

### 個人商店化と部門間連携不足を解決するオフィス



個人商店化と部門間連携不足を組織の課題ととらえ、それを解決するため、タテ・ヨコそして組織外とのコミュニケーション活性化の仕掛けを各所に配置したオフィス。活きたチームワークやマネジメントを作るオフィスとその運用をご紹介します。

### 梅田オフィス Workstyle Theater

### チームでのコラボレーションを促し、イノベーションを引き起こすオフィス



空間の有効活用と部門間コミュニケーションのアイデアが詰まったオフィスにリニューアル！イノベーションを起こす新しい働き方をご紹介します。

お問い合わせは